

本文

- ① 子曰、「学而時習之、不亦説乎。有朋自遠方来、不亦楽乎。人不知而不愠、不亦君子乎。」
子曰はく、「学びて時に之を習ふ、亦説ばしからずや。朋有り遠方より来たる、亦樂しからずや。人知らずして愠みず、亦君子ならずや。」と。
- ② 曾子曰、「吾日三省吾身。為人謀而不忠乎。与朋友交而不信乎。伝不習乎。」
曾子曰はく、「吾日に三たび吾が身を省みる。人の為に謀りて忠ならざるか。朋友と交はりて信ならざるか。習はざるを伝ふるか。」と。
- ③ 子曰、「巧言令色、鮮矣仁。」
子曰はく、「巧言令色、鮮なし仁。」と。
- ④ 子曰、「君子食無求飽、居無求安。」
子曰はく、「君子は食飽くことを求むる無く、居安きことを求むる無し。」と。
- ⑤ 子曰、「吾十有五而志于学、三十而立、四十而不惑、五十而知天命、六十而耳順、七十而从心所欲、不踰矩。」
子曰はく、「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑はず。五十にして天命を知る。六十にして耳順ふ。七十にして心の欲する所に従へども、矩を踰えず。」と。
- ⑥ 子曰、「温故而知新、可_レ以_レ為_レ師矣。」
子曰はく、「故きを温めて新しきを知れば、以て師と為るべし。」と。
- ⑦ 子曰、「学而不思則罔、思而不学則殆。」
子曰はく、「学びて思はざれば則ち罔し、思ひて学ばざれば則ち殆ふし。」と。
- ⑧ 子曰、「由、誨女知之乎。知之為_レ知之、不知為_レ不知、是知也。」
子曰はく、「由よ、女に之を知るを誨へんか。之を知るを之を知ると為し、知らざるを知らずと為す、是れ知るなり。」と。
- ⑨ 子曰、「人而無_レ信、不知_レ其可_レ也。」
子曰はく、「人にして信無くんば、其の可なるを知らざるなり。」と。
- ⑩ 子曰、「君子周而不比、小人比而不周。」
子曰はく、「君子は周して比せず、小人は比して周せず。」と。

設問

1. ①の傍線部「学而時習之、不亦説乎」を書き下し文に改めよ。

2. ①「人不知而不愠、不亦君子乎」を現代語訳せよ。
3. ②の傍線部「吾日三省吾身」を書き下し文に改めよ。
4. ③「巧言令色、鮮矣仁」とはどのような人物を批判した言葉か、現代語訳をふまえて説明せよ。
5. ⑤の傍線部「五十而知天命」を書き下し文に改めよ。
6. ⑤の「従心所欲、不踰矩」を現代語訳せよ。
7. ⑤で孔子が「四十にして惑はず」と述べていることから、四十歳を表す語が生まれた。その語を漢字で答えよ。
8. ⑥「温故而知新」から生まれた四字熟語（成語）を漢字で答え、その意味を説明せよ。
9. ⑥「可以為師矣」を現代語訳せよ。
10. ⑦「学而不思則罔、思而不学則殆」について、次の問いに答えよ。
 - (1)「罔」「殆」の読み（送り仮名を含む）をそれぞれ答えよ。
 - (2) この章句で孔子が説いている、学問における大切な態度を説明せよ。
11. ⑧の傍線部「知之為知之、不知為不知、是知也」を書き下し文に改めよ。
12. ⑨「人而無信、不知其可也」を現代語訳せよ。
13. ⑩「君子周而不比、小人比而不周」で、孔子は「君子」と「小人」をどのように対比しているか説明せよ。
14. ①の「説」と同じ意味・読みで用いられている漢字を、次から選べ。
 - ア 喜 イ 説明 ウ 解説 エ 遊説
15. ①の「朋」の意味を答えよ。
16. ①の「愠」の読み（送り仮名を含む）と意味を答えよ。
17. ①に三度くり返される「不亦～乎」という句法は、どのような意味・気持ちを表すか答えよ。
18. ②で曾子が日々反省するとしている三つの事柄を、本文に即して具体的に説明せよ。
19. ②の「信」の意味として最も適当なものを次から選べ。
 - ア 信仰すること イ まごころ・誠実さ ウ 手紙 エ 信用貸し
20. ⑧で孔子が弟子の由（子路）に教えている「本当の知（知ること）」とはどのようなことか、わかりやすく説明せよ。
21. 『論語』について、次の問いに答えよ。
 - (1)『論語』は、誰の言行を記録した書物か。人物名を答えよ。
 - (2)『論語』を中心とする、その人物の教えにもとづく思想（学派）を何というか。漢字で答えよ。
22. 本文全体をふまえ、孔子が「学ぶこと」についてどのような考えを持っていたか、本文中の二つ以上の章句を根拠にして説明せよ。